

1 目指す学校像

児童生徒一人一人が主体的に活動し、自己を肯定的にとらえることができるよう個々のニーズに応じた教育ができるよう支援を行う。  
 ○個々の児童生徒に対応することで治療中の児童生徒が登校を楽しみにする学校 ○保護者から信頼される学校  
 ○医療関係者等と連携し協働できる学校 ○教職員が生き生きと仕事ができる学校

2 本年度の教育目標

一人一人のニーズに応じた教育を推進し、社会参加・自立できる人間の育成をする。

評価者		
○児童生徒	9名中	5名
○保護者	9名中	5名
○学校関係者（アンケート回答者）	43名中	43名
○教職員	5名中	5名

評価の基準

- A：設定した目標を十分達成できた。
- B：設定した目標に対し、ほぼ達成でき、次年度の課題が明確になった。
- C：設定した目標に対し、成果が不十分であり、課題が残った。
- D：設定した目標に対し、ほとんど達成できなかった。

3 評価

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価	学校関係者評価	今後の課題		
1 授業に関する事	<p>○学校関係者からは、教えている場面を見たことがない等から「わからない」の回答があり、全員に授業を見てもらうことが難しいことや学校関係者が転勤等で変わるため、年間を通じてご理解をいただくための活動が必要となる。</p> <p>○教職員自身は、昨年度に比べて、授業づくりができたと考えているが、より良い授業に向けてICT機器を使用した授業展開等の研修に取り組む必要がある。</p>	<p>○学習空白を作らないように個々の児童生徒に合わせた授業づくりをする。</p> <p>○ICTを活用した教材や教具の工夫を行う。</p> <p>○個々の児童生徒にあった授業を展開できるように教職員全員が研究授業と協議等を実施して研究の推進をする。</p> <p>○個々の児童生徒が病状を適切に理解し生活できる力を育てるため、自立活動及び全ての教科で研究を推進する。</p>	<p>○前籍校と学習進度を合わせるために、連絡を密にする。</p> <p>○ICT機器を活用した授業づくりのために各種専門家と連携し、教材や教具の工夫を行う。</p> <p>○教職員それぞれが自分自身の授業力向上のために教材研究や研究授業等に取り組む。</p> <p>○個々の児童生徒の病状を理解するために小児の疾患について研修会を実施する。</p>	<p>質問1 わかりやすい教材であるか？                  児童生徒 「5」60%、「4」20%                  保護者 「5」80%、「4」20%                  教職員 「5」60%、「4」40%</p> <p>質問2 わかりやすい教え方であるか？                  児童生徒 「5」60%、「4」20%                  保護者 「5」60%、「4」40%                  教職員 「5」40%、「4」60%</p> <p>○必要に応じて前籍校と学習進度を合わせるために連絡を密に取り合い、中学部の定期テストも前籍校の試験問題で実施できた。                  ○ICT機器の研修を実施するとともに授業に取り入れ、教材の幅が広がってきた。また、病院の協力により、病室でもWi-Fiにつないで授業を行うことができるようになった。                  ○教職員による研究授業に取り組むことができた。その中で、教材の工夫、授業展開等について全員で考えることができ、改善に向けて話し合いもできた。                  ○学部研究会では、個々の児童生徒の病状を理解するために小児の疾患について研修し、学習したことを日々の教育活動に生かすように心がけた。</p>	A	<p>質問1 わかりやすい教材であるか？                  学校関係者「5」22%、「4」22%</p> <p>質問2 わかりやすい教え方であるか？                  学校関係者「5」24%、「4」17%</p> <p>○授業については、授業参観してみて、子どもたちが分かりやすいように取り組んでいたのが分かった。また、学校生活があることで、児童生徒の日常生活が充実していたと思う。                  ○病室でもWi-Fiを使用できたことで、学習内容が充実できて良かった。</p>	A	<p>○学校関係者からは、「関わる事がなかったです」等から「分からない」の回答があり、全員に授業を見てもらうことが難しいことや学校関係者が転勤等で変わるため、年間を通じてご理解をいただくための活動が必要となる。</p> <p>○教職員自身は、昨年度に比べて、ICT機器による教材の活用により、授業づくりができたと考えているが、より良い授業に向けて更に研修に取り組む必要がある。</p>
2 児童・生徒指導に関する事	<p>○学校関係者からは、評価する声と「教員の人によって違うと感じる」のご意見もあり、児童生徒理解について教職員間の情報交換や研修する必要がある。また、学校関係者に学校の教育活動についてのご理解をいただく活動が必要と考える。</p> <p>○分枝に在籍する児童生徒は、常に変わることから、個々の児童生徒や保護者の状況に合わせて接していく必要があるため、今後も相談しやすいと感じてもらえるよう実践力を高めていく研修等を継続する必要がある。</p>	<p>○児童生徒が病状を理解した生活習慣を身に付け、将来の職業について考える力を育むよう学校生活全般で指導、支援を行う。</p> <p>○スクールプランニング事業やゲストティーチャー、ボランティア等を活用し、児童生徒が自分の将来の生活について考えるきっかけをつくる。</p> <p>○児童生徒や保護者の心に寄り添えるための教師の資質向上を図る。</p>	<p>○児童生徒が病状を理解した生活ができるようになるため、自立活動の時間の学習について研究をする。</p> <p>○「ゲームクリエイター、漫画家、ギタリスト」等の外部講師の授業を実施する。</p> <p>○児童生徒の情緒安定を図るために、外部講師による本の読み聞かせや音楽会等を実施する。</p> <p>○スクールカウンセラー及び外部講師による病気の児童生徒への心理的ケアについての研修を実施する。</p>	<p>質問3 相談しやすいか？                  児童生徒 「5」40%、「4」20%                  保護者 「5」60%、「4」40%                  教職員 「5」20%、「4」60%</p> <p>○質問4 理解してくれているか？                  児童生徒 「5」80%、「4」20%                  保護者 「5」80%、「4」20%                  教職員 「5」20%、「4」60%</p> <p>○個々の児童生徒の実態に合わせた自立活動の学習を実施してきたが、研究するまでの取組には至っていなかった。                  ○児童生徒の情緒安定を図るために、外部講師によるゲームクリエイター、漫画家、ギタリスト、本の読み聞かせや音楽会等を実施することができた。                  ○病気の児童生徒への心理的ケアについての研修は、講師にスクールカウンセラー及び外部講師を招き実施した。研修内容は、日々の教育活動に役立てるよう心掛けた。</p>	B	<p>質問3 相談しやすいか？                  学校関係者「5」27%、「4」32%</p> <p>質問4 理解してくれているか？                  学校関係者「5」29%、「4」17%</p> <p>○児童生徒の状況を理解し、病棟と一緒に支援をしてあげていたと思う。また、病気が起因して障害が出てきた児童生徒に対する日常生活支援を一緒に取り組んでもらえたと思う。</p>	A	<p>○学校関係者からは、評価する声と「そうだと思いますが、あまり関わりをもっていませんでした。」のご意見もあり、学校関係者に学校の教育活動についてのご理解をいただく活動が必要と考える。</p> <p>○分枝に在籍する児童生徒は、常に変わることから、個々の児童生徒や保護者の状況に合わせて接していく必要があるため、今後も相談しやすいと感じてもらえるよう実践力を高めていく研修等を継続する必要がある。</p>
3 学校運営に関する事	<p>○研修会や講演会については、本年度と同様に早い時期に計画し、本校や南国市の小中学校に対して案内するよう取り組む。</p> <p>○前籍校や病院との連携については、児童生徒、保護者や学校関係者に一定の評価をいただいているが、在籍の児童生徒や学校関係者が常に変わることで予測されるので、ご理解いただく活動の取組を続けていく必要がある。</p>	<p>○特別支援学校としてのセンター的機能を充実させる。</p> <p>○病院、保護者、前籍校との連携を図り、学習の保障と円滑な前籍校復帰を図る。</p> <p>○学校関係者や保護者に分枝が実施している教育活動や病院及び前籍校との連携を理解してもらえるような機会をつくる。</p>	<p>○ホームページで研修等の案内の情報を発信していく。</p> <p>○市町村の教育委員会や小中学校からの要請に応じて教育相談等の対応をしていく。</p> <p>○参観週間に授業の案内をすともにも学校便りを作成し、児童生徒の入院する病棟で回覧してもらう。</p> <p>○医教連絡協議会や医教連絡会を継続し、必要に応じて病院内の各分野と連携した会を実施する。</p> <p>○前籍校との連携を密にしてい中で、交流及び共同学習等、必要に応じて計画的に実施する。</p>	<p>質問5 交流教育ができていますか？                  児童生徒 「5」60%、「4」20%                  保護者 「5」80%、「4」20%                  教職員 「5」60%、「4」40%</p> <p>質問6 病院と連携しているか？                  児童生徒 「5」40%、「4」20%                  保護者 「5」60%、「4」20%                  教職員 「5」80%、「4」20%</p> <p>学校関係者「5」56.10%、「4」14.63%</p> <p>○専門性の向上を目指した研修会に、本校や小中学校の担任が参加しての研修会を実施できた。                  ○南国市の教育委員会からの要請で、小中学校の教育相談等に対応することができた。                  ○病院関係者の協力により医教連絡協議会や医教連絡会を継続して実施することができたことから、児童生徒の実態把握につながり、学習活動に生かすことができた。                  ○居住地域交流・支援会議等必要に応じて開催し、前籍校との交流学習や退院後に安全な学校生活が送れるよう取り組むことができた。</p>	A	<p>質問5 交流教育ができていますか？                  学校関係者「5」34%、「4」34%</p> <p>質問6 病院と連携しているか？                  学校関係者「5」56%、「4」15%</p> <p>○交流教育については、どのような活動をしているのか分かりづらい内容のため、アンケートに回答するのは難しい。（※来年度のアンケート内容を検討することとなる。）                  ○病院との連携では、日々の病状や支援会議等、個々の児童生徒のために連絡が密に取れていたと思う。</p>	A	<p>○研修会や講演会については、本年度と同様に早い時期に計画し本校や南国市の小中学校に対して案内するよう取り組む。</p> <p>○前籍校や病院との連携については、児童生徒、保護者や学校関係者に一定の評価をいただいているが、在籍の児童生徒や学校関係者が常に変わることで予測されるので、ご理解いただく活動の取組を続けていく必要がある。</p>